

# 天竜浜名湖鉄道特集

## 概要

天竜浜名湖鉄道は旧国鉄の特定地方交通線（二俣線）を引き継いだ路線である。掛川～新所原を内陸の天竜を経由する路線である。全線単線でかつ非電化である。この路線は戦前に東海道本線が、敵軍の攻撃により不通になった際のバイパスとするため作られたものである。

日中の運行本数は1時間に1本程度である。朝夕はこのほかに区間運転が行なわれ、増便される。使用車両は、TH2100型又はTH3000型（1両編成セミクロスシート）で、ワンマン運転である。

沿線景観についてであるが、全体的に典型的な田舎の景観である。沿線景観は図のように【1】掛川～天竜二俣・【2】天竜二俣～気賀・【3】気賀～新所原と大きく分けることができる。【1】は広大な田畑が広がっていて、ドラマのロケーションとして利用できる。実際に原谷駅においては、ウォーターボーイズ2で姫乃駅として設定されている。【2】はみかん畑と田畑が広がる光景が繰り返される。それから、若干高いところを通るので、上から下を見下ろす景色がきれいなところがある。また、二俣本町から西鹿島においては、天竜川を渡る。【3】浜名湖とみかん畑が同時に楽しめる区間である。湖岸沿いを走る区間もあるので、浜名湖を間近で見ることができて、絶景である。また、浜名湖佐久米駅や三ヶ日駅など、駅ホームから浜名湖を見られる駅もある。

私が乗車したのは休日であったため、主に休日の利用状況について簡単にみている。掛川～豊岡は利用者が少ない。需要があるとすると、平日の通勤通学需要である。豊岡～西鹿島は、西鹿島において遠州鉄道に乗り換える人が多いことから、浜松市内への買い物客（平日は通勤通学客）が利用している。西鹿島～新所原の景色の良い区間においては、観光客が多かった。

土日は観光路線としての特徴が大きく出てきていると思うが、平日はどのくらいの人利用しているかが問題である。地域の利用者が極端に少なければ、存続問題が発生する。今回は主に概要と景観を中心にみてきたが、いつか地元利用について調べ、いろいろ考察してみたい。

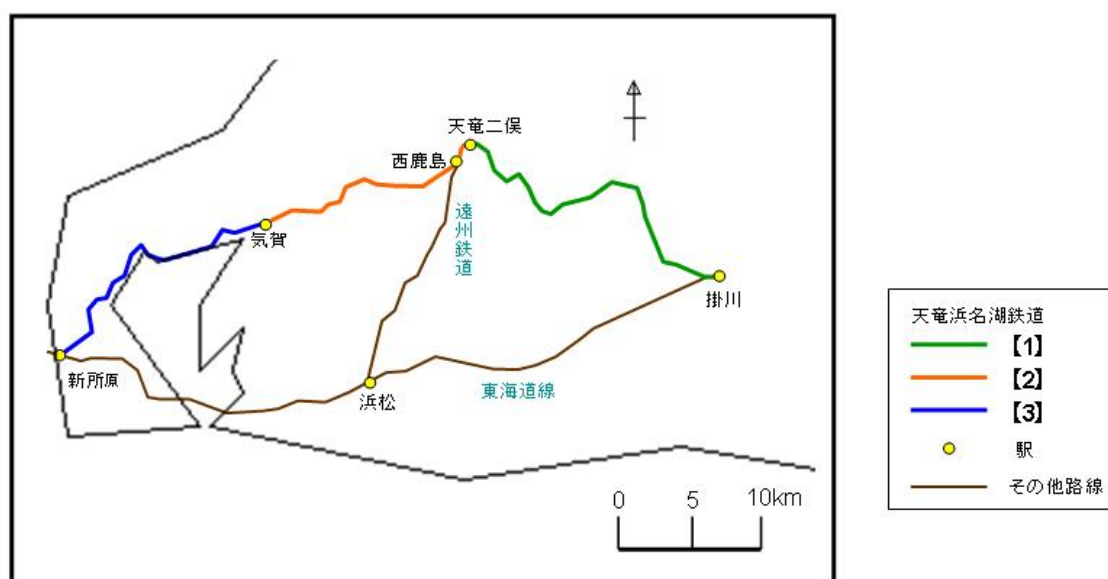


図 鉄道路線図

※地理情報分析支援システム「MANDARA」により作成

# 景観

【1】



細谷駅



遠江一宮～敷地



【2】



天竜川（二俣本町～西鹿島）



都田～浜松大学前



みかん畑（気賀高校前～気賀）

【3】



浜名湖①（西気賀～寸座）





浜名湖②（浜名湖佐久米駅の東名高速とのコラボレーション）



浜名湖③（尾奈～知波田）



## 駅・車両



三ヶ日駅から海を撮影した拡大写真



運行形態上の拠点駅のうちの1つである天龍二俣駅





TH2100 型気動車



車内はセミクロスシートである

参考ホームページ

・フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』